

「ふるさと春日井学」研究フォーラム

Forum for Furusato Kasugai Studies

「ふるさと春日井」まちづくりへの応援メッセージ

『ふるさと意識なくして地域の活性化なし』

会報

NO. 51

2017. 6. 3発行

編集責任：河地 清

Kawachi-k@mb.ccnw.ne.jp

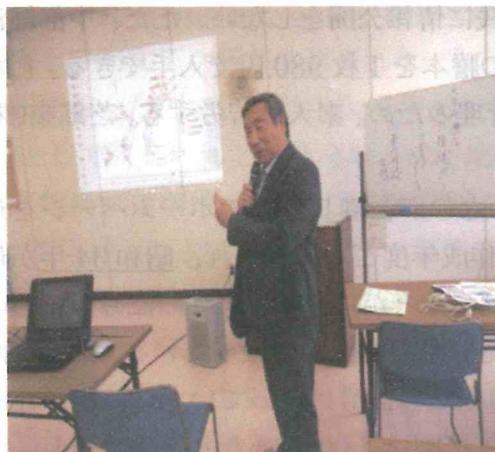
第 51 回「ふるさと春日井学」研究フォーラム

テーマ『春日井市の炭田—その歴史と廃坑—』

平成 29 年 5 月 7 日（日）市民活動支援センター（ささえ愛センター）において「ふるさと春日井学」研究フォーラムをテーマ『春日井市の炭田—その歴史と廃坑—』と題し、本会副会長塚田忠雄氏に講演していただきました。

戦前戦後重要なエネルギー資源として、国民生活での家庭用燃料でもあった亜炭（岩木鉱）は、春日井市地域で盛んに採掘生産されていました。戦前は国策でもあった生産活動は、石炭と共にエネルギー産業の重要な柱でもありました。昭和 40 年頃まで続いた採掘活動は現在は、全て廃坑となっておりその全容ははっきりとはしていませんでしたし、春日井市域における亜炭鉱研究は不十分なものでした。塚田氏は、長年芝炭鉱（芝炭業株式会社）の実態を研究されてきた成果を含めて現在の春日井市内の炭坑跡の実態を多くのスライドでわかりやすく説明をしていただきました。最近発生した出川町のちびっこ広場のブランコ下の亜炭鉱跡の竖坑陥没事故や、JR リニア新幹線の地下ルートになったことからこの問題に対する市民の関心は広がってきています。

参加者は 29 名でした。



会場風景

講演：塚田 忠雄 氏

—発表要旨—

春日井市民にいま亜炭鉱についての関心が深まっているのは、一つは 2015(平成 27)年に出川町の赤平ちびっこ広場のブランコの下に直径 5m、深さ 2m の芝炭鉱金ケ口鉱の亜炭鉱跡の竪坑が陥没し、新聞に取り上げられてきたことで多くの市民の記憶に焼き付けられていること、二つに、JR 東海のリニア新幹線ルートが明らかになり、春日井市内に 4 か所の非常口が計画され、現地説明会が開かれてきており関心が深まっていることなどがある。もともと郷土史としても春日井の亜炭鉱の研究が不十分で、春日井市内の亜炭鉱の実態が、全体像を描き切れていなかったことがあり、春日井の亜炭の生産と亜炭鉱の坑口の位置、さらに陥没と表面沈下の位置などをこれまで探ってきた。特に芝炭鉱(芝炭業株式会社)の実態を示す痕跡と資料探しをしてきた。今回の講師塚田忠雄(本フォーラム副会長、郷土史研究会)は長年の研究から、ほぼ春日井市内の亜炭生産や亜炭鉱の位置を見つけ、視覚的に春日井の亜炭鉱を浮き彫りにした。



平成 27 年 出川町のちびっこ広場での陥没現場

中部大学の西崖下の松本町に複数、中部大学の南の不二が丘町、芝炭業(株)の事務所近くの金ケ口町の 4 地区である。「愛知統計年鑑」の亜炭(項目)の統計は昭和 42 年までで、春日井市内の亜炭鉱もこの頃には消えた。芝炭業(株)の事業も鉱業原簿に廃業の届けが載るが、春日井市はこれをもっているのに、市民に情報公開をしない。ただ、中部経済産業局(県庁市庁舎の西隣り)に行けば鉱業原簿の謄本を 1 枚 980 円で入手できる。ただし、住所による管理ではなく、登録番号による管理のため、素人は苦勞する。芝炭業(株)は「愛知県採掘権登録第 54 号」である。

(2) 昔の都市地図を持っている人はほとんどいないが、春日井市のホームページを通して「都市計画基本図」を見ることができる。作成年度ごとに見られ、昭和 34 年が最も古く、3 千分の 1 の地図に、鉱山記号を見つけることができる。炭鉱の記号が載るのはこの年のものだけで、亜炭鉱の隣りには鉱山施設も□の記号で載っている。都市計画基本図の次の年は昭和 41(1966)年で、これには炭鉱の記号は載っていない。中部経済産業局資源エネルギー環境部鉱業課で手に入る鉱区図は 3,000a あたり 2,080 円し、芝炭業(株)の鉱区図は 39ha もあり、13 枚の鉱区図を入手するには 2 万 7,040 円かかる。見たこともない鉱区図を入手しても、実は地表の鉱区の採掘許可を得たということであ

I. 都市地図や都市計画基本図に亜炭鉱跡が確認できることを紹介した

(1) 市販の昭和 44(1969)年発行の昭文社の都市地図「春日井市」(2 万分の 1)には鉱山記号が載っている。少なくとも春日井市には昭和 42 年から 43 年にかけて亜炭鉱があった証拠になる。小牧市に近い東山町に複数、

って肝心の堅坑や横坑の地下情報は載らない。結局は行政が独自に既存資料情報や新たにボーリング調査をしないと地下情報はわからない。

II. 日本充填協会の会報「充てん」と協会発行の報告書や論文で知れること

日本充填協会(2007年に充填技術センター発足)は1977(昭和52)年に設立された。自治体や区画整理組合等の要望を受け、地下空洞調査、充填工事の主導、充填技術の開発のために大きな役割を果たした。その協会の会報が「充てん」で、1979(昭和55)年から毎年出版されてきた。春日井市は会員である。可児・尾張旭・長久手・御嵩の各市町は正会員自治体である。

(1) その「充てん」の第2号に「高蔵寺地区亜炭廃鉱充てん事業に伴う環境管理事業報告書」が載る。春日井市は1977(昭和52)年に、この高蔵寺地区のボーリング調査をし、1980(昭和55)年にこの民家密集地(JR中央本線以南、庄内川の間)にボーリング調査をしたのは全国的にみても珍しい。この地域(大字高蔵寺)は、出川、松本、神明に比べて最も多く亜炭を産出したところであった。「充てん」第5・6号合併号(1982(昭和57)年発行)は「高蔵寺地区亜炭廃鉱充填事業管理業務報告書」が載る。さらに、「充てん」第12号(1986(昭和61)年発行)には「長久手地区及び高蔵寺地区で注入した充填物のその後の状況」が載る。充填後の「その後の状況」を検査するのは全国的にみても珍しいことであった。「その後」のボーリング調査で新たな陥没地が10数か所で見ついている。小吹地区と呼ばれるこの地の調査は上層(5m)、中層(25m)、下層(37m)の三層を調べている。大字高蔵寺の亜炭層は地表から40間(72m)に14層もの亜炭層があり、中でも、高倉山の谷(西側)の亜炭層は6尺(1m80cm)もの厚さであったという。薄い層は通常は採掘されない。この再検査の結果は20mまでの検査で十分だというものであった。

(2) 昭和57(1982)年の「亜炭鉱採掘跡春日井市東山地区潮見坂地点地質調査」によると、潮見坂の亜炭鉱跡の陥没坑と表面沈下の調査は潮見坂霊園を三角に囲む3点のボーリング調査をし、地下20m等深線で調査された。いわゆる浅所陥没地で、117か所陥没地と表面沈下ヶ所が確認された。うち74か所が「陥没孔」であった。御嵩町では153か所であったので、それに次ぐ数である。潮見坂の炭鉱跡は春日井市によって霊園(墓地)として開発された。陥没地・沈下地跡の補修後もまた陥没・沈下する例もあった。墓苑整備は市街地の都市計画に連動して市街地内に点在する墓地の移転が目的であった。昭和39年までに整備され、墓地の分譲が行われた。標高104mの高地がある国道19号線の隣りは墓苑公園と呼ばれたが、墓地にもならず、公園としての整備も行われていない。春日井市内で大規模な亜炭鉱跡の空洞地は正確な調査はされておらず、以上2つの埋め戻し・充填の実績から20mまでの検査で十分との結論を導いた。他所での基準となる。

(3) 春日井市内にはJR東海のリニア新幹線の非常口が4か所予定されている。西尾、坂下、神領、勝川口で、地下40~45mの大深度の都市トンネル(西尾は山岳トンネルで

保守基地にもなる)が、西尾での JR 東海主催の説明会では「亜炭鉱は 7m から 14m の深さで影響はない」と説明された。また、「坑道跡は水が浸っていて安定している」と説明された。(2013.10)亜炭鉱廃坑にともなう陥没は「特定鉱害」の認定を受け、特定鉱害復旧事業等基金による埋め戻しが行われる。対象は地表から 50m 以内である。

III. スライド 42 枚の視覚的な情報の提供

これほどの写真や図表、要約のコマを提供されたものはこれまでになかった。その中には芝鉱業(株)の昭和 5 年の金ケ口坑の掘鑿計画の説明書や付近の平面図も映し出された。(金子力氏の提供)。この図面に堅坑と横坑の高さや幅と坑道・切羽位置も描かれ、堅坑の位置や深さ、残柱採炭坑の平面図も示される具体的なものである。

また、「春日井市史」(昭和 38 年刊)に芝炭鉱の櫓の写真を見ると、長久手町のジオラマの模型と同様であること、さらに左下にトラックのボンネット部分が写っていることも紹介された。松本から高蔵寺駅に運ばれ、貨車で大垣や桑名方面に運ばれた。産業エネルギーとして使われたことの裏づけともなる。残念ながら、春日井市にはこの写真は遺されていない。ずさんな管理をしていることがわかる。

IV. 創業者三男の描く小説「崖っぶちの青春」は亜炭鉱労働の様子を示す貴重な資料

主人公の芝豊造は昭和 16 年 1 月生まれ、記憶をたよりに炭鉱の情景を描く私小説。事務所は金ケ口池の西に門の内側に二階建てのレンガ造りとモルタル造りの事務所がある。炭鉱労働者の長屋があると描く。先に紹介したシ昭和 34 年の都市計画基本図を見ると事務所と幹部用の住宅、労働者住宅が書き込まれている。当日配られた「春日井郷土史研究 16」を読んでほしい。亜炭鉱労働のイメージが浮かぶ内容だ。

V. スライド No37~42 は投影したが、7 枚目の手許資料の配布がなかった

No36 は長久手歴史資料館のジオラマ。No37 は美濃炭田と尾張炭田の図。No38 は御嵩の亜炭採掘の歩み。明治 27 年に製糸工場が増え、ボイラー燃料として亜炭需要が増加、昭和 20 年に亜炭を航空機燃料にするため一部の炭鉱を軍直属とした、昭和 42 年にすべて閉山。No39 に大正初年代の歌人松浦敬の和歌の紹介。「春日井市史」にも 1 首ありと口頭追加。No40 は「小牧市史」にみる小牧の亜炭鉱。大正期に入ってから芝池ノ内鉱山、芝鉱山にふれる。No41 は、昭和 52 年 3 月刊の小牧市史の記述の間違いの指摘。春日井市史の間違いがそのまま影響したことが紹介された。

以上、亜炭鉱の実態は市販の都市地図や春日井市の HP から得られる都市計画基本図から探ることができ、日本充填協会の会報が引用可の許可を得て、より具体的に知れることを示す報告であった。ただ、春日井市の情報公開が遅れており、歴史に残す作業を邪魔していることを強調した。御嵩については特別に情報公開や特別の国の予算措置が平成 28 年を以って終了している。御嵩町(人口 2 万人弱)の広報活動に元気がない。負のイメージを避ける様子が垣間見られる。陥没地の基金による埋め戻しも、あくまで鉱害としての復元作業で、陥没の予防措置はいまだに認められないことを付け加えておく。

OPINION

『ふるさと意識』を生かした「地域活性化」

—鳥居松商店街の「地域活性化」の取り組み—

先日「鳥居松商店街」（鳥居松商店街振興組合）の理事の方から、「ふるさと意識」を生かした創造的な「地域活性化」の取り組みの事例を「論文」（『「地域活性化」の本質的方法試論』（修文大学研究紀要8号）所収）に取り上げられたことを「記事にしました」とのことで、「鳥居松商店街ニュース」というカラー刷りの新聞を送って頂きました。この新聞は、「鳥居松商店街」（鳥居松商店街振興組合）の活動状況と商店街地域のコミュニティー情報及び組合員（店）の紹介を中心にエリア内に5000部新聞折り込みで年4回配布されています。その他、「組合だより」も配布され販促促進、組合員の親睦などに取り組んでおられます。今日多くの商店街が衰退傾向の中にあつて、とても活力と創意工夫を凝らした活動が感じられる数少ない商店街ではないかと思つて見えています。本会の『会報12号』（2014.1.20）でも「鳥居松商店街」のことを「地域活性化」の取り組みとして紹介したことがありますが、「地域活性化」で鳥居松商店街振興組合に期待できる優れた視点は、所謂「ふるさと意識」を生かした経済活動への取り組みという点にあると思ひます。地域の特色、魅力を見つけてそれを大いに活用している点です。市庁舎に掲げられた横断幕「書のまち春日井」と小野道風の絵と商店街に立ち並ぶ100本近い街灯に貼られた市民やエリアの子供達の書いた素朴な書が、この地域の「特色ある」風景を創り出しています。この取り組みが始まって5年だそうです。徐々にこの取り組みが市民に「浸透してきています」と、関係者は語っておられました。先日某理事さんと話している中で、「鳥居松」地域を歴史的に見てみると、かつては、松河戸、上条、下条、鳥居松等の地域は、和爾良村に包括された一つの地域であったことを考えたら、現在の駅前商店街、広小路商店街、鳥居松本町商店街、鳥居松商店街もみな同じ鳥居松地域なんだよねという話題がでました。地域（エリア）の構成員（町内会、商店街他）がもう一度この地域をどうしたいのか、創意工夫を出し合わねばいけないねということで、新しいコミュニケーションの場を創りましょうという方向へ話が展開していきました。徐々に状況は変化してきていることを感じました。（文責：河地 清）

次回

「ふるさと春日井学」研究フォーラムのご案内

「ふるさと春日井」の魅力を再発見するFORUM

「ふるさと意識なくして地域の活性化なし」

「地域活性化・まちづくりの応援メッセージ」

Forum for Furusato Kasugai Studies

第52回 Forum テーマ：『日本武尊を追いかけるー白鳥伝説ー』

日時：**平成29年6月4日(日) 午後1時30分～3時30分**

場所：市民活動支援センター（ささえ愛センター）八幡小学校西側

TEL：0568-56-1943（〒486-0837 春日井市春見町3番地）

講師：**八木 敦 氏**（日本武尊研究家）

フォーラム内容：古代国家の成り立ちを考えると「日本書紀」の記述を避けては通れません。ヤマトタケルについての記述とその伝説は全国各地に分布しています。この春日井の地には「白鳥伝説」が今日まで伝えられてきています。「日本武尊」の伝説を全国に追い求めながらその実像に迫ろうと長年の研究成果の一部を発表していただきます。・・・・・・後はFORUMで

（非会員の方のみ資料代500円徴収させていただきます。）

第53回 Forum テーマ：『稲口町の偉人吉田源応について』

日時：**平成29年7月2日(日) 午後1時30分～3時30分**

場所：市民活動支援センター（ささえ愛センター）八幡小学校西側

TEL：0568-56-1943（〒486-0837 春日井市春見町3番地）

講師：**後藤 園泉 氏**（書家・春日井市美術協会参与）

フォーラム内容：春日井市稲口町生まれの吉田源応は、嘉永二年生まれ、万延元年竜泉寺行応阿梨について得度、文久四年密蔵院に入り、京都に遊学後に天台座主を再度に渡ってつとめた人。学徳兼備、徳風高く、密蔵院、四天王寺住職をつとめ、四天王寺女学園の創立、稲口地域に大きな貢献を残した人・・・・・・後はFORUMで

（非会員の方のみ資料代500円徴収させていただきます。）

※事務局：〒486-0825 春日井市中央通り2-9 TEL・FAX0568-82-5973 会長 河地 清

mail address:kawachi-k@mb.ccnw.ne.jp

かすがい市民活動情報サイト：<http://kasugai.genki365.net/>

ふるさと春日井学検索